

# 水曜通信 20

2019年  
2月

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

## 第20回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2019年2月20日（水） 18:30-19:00



説教：松本 宣郎（本学学長）

奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：H.シャイデマン

「我ら今聖霊に願いまつる」

讃美歌：38番「わが霊のひかり」

聖 書：マタイによる福音書 20章 1-16節

讃美歌：514番「よわきものよ」

説 教：「最後の者たちにも」

祈 禱

頌 栄：544番「あまつみたみも」

後 奏：J.S.バッハ

「コラール：ふるい立て我が心よ」

後奏の後、40分間の金持亜実（東京藝術大学教育研究助手）・谷地畝晶子（岩手大学非常勤講師）・中川郁太郎（本学特任准教授）のカウンターによる賛美を行ないます。

次回第21回水曜礼拝は4月17日です。

## 第19回 水曜礼拝報告（説教：出村 みや子、奏楽：小野 なおみ）

2019年1月16日(水) 18:30-19:00

讃美歌：244番「行けどもゆけども」  
聖書：ルカによる福音書 24章 28-35節  
讃美歌：326番「ひかりにあゆめよ」  
説教：「もう日も傾いて」  
頌栄：544番「あまつみたみも」



### 【説教要旨】

「もう日も傾いて」という一節は、私たちが人生で出会う絶望的状况、自力ではとても将来の展望が開けない場面に直面した時のことを想起させます。2人の弟子はイエスの十字架を目のあたりにして絶望に打ちひしがれていたために、今共に歩んでいる旅人が復活の主イエスであるとは分からなかったのです。

2人にとって「新しく生きる」ことは、復活の主イエスによる一方的な語りかけによって始まりました。「心の目が開けた」彼らは十字架と復活の意味をつぶさに理解し、時を移さず直ちに新たな使命に向けて旅立ちました。エマオ途上の物語から私たちは、主イエスが人生の途上において語りかけ、共に歩んで下さる方であることを覚えたいと思います。  
(出村みや子)

前奏：J.S.バッハ「日にして光なるキリストよ」BWV1096

後奏：J.S.バッハ「おお主よ心より汝を愛しまつる」BWV1115

ドイツのオルガン学者J.G.ノイマイスターは、18世紀末にドイツバロック期の様々な作曲家のオルガン作品を筆写しました。ここからバッハの曲だけを取り出したものが「ノイマイスター・コラール集」として1985年（バッハ生誕300年）に公開されました。前奏は夕（夜）のコラール、後奏は信仰をテーマとしたコラールが元になっています。

(小野なおみ)



礼拝とその後の19時00分から40分までの松岡多恵（東京藝術大学大学院博士課程）・森翔梧（東京藝術大学大学院修士課程修了）による独唱・重唱での賛美に35名の市民が参加されました。

## 礼拝後、松岡多恵氏および森翔梧氏による独唱・重唱での讃美

はじめに、ルーテル教会讃美歌集から讃美歌21に収録された《あたらしい年を迎えて》を二重唱で歌っていただき、続いて珠玉の宗教曲の中から、カトリック圏の作品二曲（モーツァルトのモテットとフォーレのレクイエム）をソプラノの松岡さんに、プロテスタント圏の作品からバッハ《クリスマスオラトリオ》の Aria をバリトンの森さんにそれぞれ独唱していただきました。最後にお二人の若々しい歌声に合わせて皆で新年の讃美歌《古いものはみな》を賛美し、新しい年のはじまりに相応しいひと時となりました。

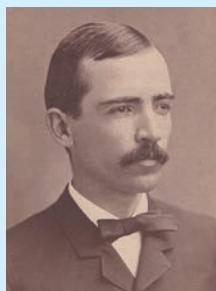
(中川都太郎)



## “FAITHFUL UNTO DEATH” (3)

### 「金子謹三とシュネーダーとの出会い」

金子謹三がクリスチャンとなった1885年の秋も深まったころ、ホーイはランカスター神学校出身者では最初の外国宣教師として日本に向けて出発するのに先立って、2年先に同神学校を卒業したシュネーダーを訪ねました。シュネーダーも日本伝道を志していましたが、その時はランカスター近郊のマリエッタで牧師をしていました。



牧師時代のシュネーダー



学生時代の金子謹三

ホーイとシュネーダーは、日本での再会を約束して別れますが、ホーイはこの時に二人の日本人留学生を伴っていました。その一人がジョージ・キンゾー・カネコと呼ばれていた金子謹三でした。金子は、シュネーダーが初めて出会った日本人となったのです。

1887年にアカデミーを修了した金子はF & M大学の本科に進学し、さらに1891年にはランカスター神学校に進んで伝道者への道を歩み始めました。一方、仙台では同じ1891年に仙台神学校

は「東北学院」と改称され、ホーイやシュネーダーは金子を神学部の日約学教授として選任することに決定していました。(続く) (東北学院史資料センター 日野哲)

## ジョン・ラファージとは誰？ (2/2)

ジョン・ラファージ (John La Farge 1835-1910) はアメリカにおいても今は忘れられているようです。彼は、その妻マーガレットが黒船で有名な提督ペリーの兄の孫娘で、ボストン・ブラーミンと呼ばれたアメリカのエスタブリッシュメントでした。ボストンの大富豪でボストン美術館の日本美術のコレクションを築いた

信徒ビゲローとも親戚です。しかし一緒にガラス作品を制作していたルイス・カムフォート・ティファニー (1848-1933) はいまや世界のブランドなのに、ラファージは忘却。世渡りが下手でした。彼は1886年に日本に来て、日光に滞在し、「ここ (日光の森) には牧神パーンがいまなお生きている」と大感動したり、また仏教的不可知論にも通暁し、本来の光の芸術であるステンドグラスで仏教的闇を作り出します。またガラスを単に光りを通すだけでなく、オブジェとしても扱いました。それは現代のガラス製品に受け継がれていきます。若き日を過ごしたニューポートには提督ペリーの銅像があり、そのすぐ近くにはユニテリアンの指導者ウィリアム・エラーリー・チャニング (1780-1842) の銅像があります。ラファージ研究は、ボストンの人たちのキリスト教の研究でもあるのです。(鐸木道剛)



カボシンのガラス、『説教するキリスト』(部分)、1889年、マクマラン美術館、ボストン、カレッジ



ニューポートの会衆派教会のステンドグラス 1880年

## — ランカスター神学校での発見（5）—

### 「シュネーダーの院長辞任」



今回初めて収集した資料の中に、シュネーダーと出村悌三郎とが室内で談笑している写真があります。裏面には、「この写真は、シュネーダーが1936年3月12日の東北学院理事会で公式に院長を辞任する約一時間前に撮られたものである」との手書きの説明が付されています。



シュネーダーが70歳の年齢を理由に、初めて院長辞任を申し出るのは1927年3月ですが、内外に多くの問題を抱えていた理事会は強く留任を求めました。この直前の3月3日にはホーイが中国から帰米の途次、太平洋上の船中で死去し、翌年の1月10日には押川方義も東京で死去するなど、三校祖はそれぞれ人生の締めくくりの時期を迎えていました。

1934年9月に開かれた理事会は、シュネーダーの辞任をやむを得ないものとして、2年後の創立50周年を機に受け入れることとし、その間、出村悌三郎を院長代理に選任することにしました。1936年5月の創立50周年記念式典ではシュネーダーの退任式と出村悌三郎の院長就任式が執り行われ、シュネーダーは35年に及ぶ重責から解放されることになりました。（東北学院史資料センター 日野哲）

### 研究ブランディング事業国際シンポジウムのお知らせ

## 「ジョン・ラファージの中世主義 — ジャポニスムとステンドグラス復興 —」

日 時：2019年2月23日（土）13：30-17：00

会 場：土樋キャンパス ホーイ記念館ホール

後 援：ジャポニスム学会、日本フェロノサ学会

趣旨説明：

● 鐸木 道剛（本学教授）「ステンドグラス 地上の天国」

パネリスト：

● ベアトリス・ラファージ（フランクフルト大学研究員）

“The Family of John La Farge, its Connections with Boston Brahmin Society and Place in American History”

● ヘンリー・アダムス（Case Western Reserve 大学教授）

“Windows to the East: The Japanese Influence on La Farge’s Stained Glass”

● 岡部 昌幸（帝京大学教授、群馬県立近代美術館）

「ラファージ、ティファニーと日本のステンドグラス」

● 井上 瞳（愛知学院大学准教授）

「ジョン・ラファージと日本美術」



文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
第20号

2019年2月6日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6547

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/